

皮膚悪性黒色種におけるセンチネルリンパ節微小転移の臨床的意義とインドシアニンググリーン蛍光法を用いたセンチネルリンパ節生検

著者	並川 健二郎
内容記述	筑波大学博士（医学）学位論文・平成23年8月31日授与（乙第2557号）
発行年	2011
URL	http://hdl.handle.net/2241/117794

氏 名 (本籍)	並 川 健二郎 (京 都 府)
学 位 の 種 類	博 士 (医 学)
学 位 記 番 号	博 乙 第 2557 号
学位授与年月日	平成 23 年 8 月 31 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
審 査 研 究 科	人間総合科学研究科
学 位 論 文 題 目	皮膚悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節微小転移の臨床的意義とインドシアニンググリーン蛍光法を用いたセンチネルリンパ節生検

主	査	筑波大学教授	博士 (医学)	原 尚 人
副	査	筑波大学准教授	博士 (医学)	森 下 由紀雄
副	査	筑波大学講師	博士 (医学)	井 口 研 子
副	査	筑波大学講師	博士 (医学)	富 樫 真 二

論 文 の 内 容 の 要 旨

(目的)

皮膚悪性黒色腫において、第 1 章ではセンチネルリンパ節 (sentinel lymph node; 以下 SN) 以外のリンパ節転移 (additional lymph node involvement) の予測に役立つような、また予後と相関するような SN 転移の細分類が可能かどうかを評価することを目的とし、第 2 章では近赤外線観察カメラとインドシアニンググリーンによる蛍光法を用いたセンチネルリンパ節生検 (sentinel lymph node biopsy; 以下 SNB) の実行可能性と有用性を評価することを目的とした。

(対象と方法)

第 1 章では 2005 年 12 月までに SNB を実施した皮膚悪性黒色腫症例を対象として、調査票を用いて国内 13 施設に対して retrospective に調査を行った。SN 転移の細分類として、maximum diameter (SN 内の最大転移巣の長径)、invasion depth (SN 内の被膜から最深転移巣までの距離)、microanatomic location (SN 内の転移巣の分布様式) を選択した。第 2 章では SNB の適応となる皮膚悪性黒色腫症例を対象として、従来の色素法や Radioisotope (以下 RI) 法に加え蛍光法を併用して SNB を行った。

(結果)

第 1 章では計 450 例のデータが得られた。additional lymph node involvement は maximum diameter が 0.1mm 未満の場合に唯一 0% であった。予後について、SN 転移陰性例に対してはいずれの細分類でも統計学的有意差をもって予後不良であり、N0 とみなせるような SN 転移の下限の設定は困難であった。microanatomic location の extensive は特に予後不良であった。第 2 章では 2007 年 4 月から 2010 年 4 月まで 49 例に SNB を実施し、同定率は 100% であった。

(考察)

第 1 章では多施設での SN 処理法に差異があり、病理評価法を含めた手順を統一した prospective study が望まれる。第 2 章では、RI が流れにくい症例において蛍光法は有用な選択肢の一つと考えられた。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は悪性黒色腫の治療の指標となりうるセンチネルリンパ節に着目している。多施設より多くの症例を集めた病理組織学および臨床的検討は、前向き研究を見据えて将来の治療指針の作成に大きく貢献すると考えられ、非常に高く評価できる。また、同定が困難なセンチネルリンパ節の対策として第3の方法を検討評価し、すぐに臨床応用できることも評価できる。

平成23年6月21日、博士（医学）学位論文審査専門委員会において審査委員全員出席のもとに学力の確認を行い、論文についての説明をもとめ、関連事項について質疑応答を行った結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。